第 1 回新たな農業大学校のあり方検討会議事録

【意見交換・議論の詳細（発言順）】

1. **進行役** 本日の検討会と次回の整理をさせていただく。今回は枠組み（カリキュラムの内容等）について検討し、対外的な見せ方や学生募集の手法については次回扱う。まずは、今回事務局から示された改善事項や再編案について、全体を通して大きく進んだポイントや課題など、所感を伺いたい。委員からお願いしたい。

2. **委員** 今回の改善事項を含めた内容は非常に良くできている。懸念点としては、限られた 2 年間の中で学生全員がカリキュラムを確実に習得しきれるかという点。習得が遅れた学生に対してどのようなリカバリーを行い、確実に習得させるかというフォローアップのタイミングや評価の仕組みを検討すれば、さらに良くなる。

3. **進行役** 内容が固まってきたからこそ、評価の部分や遅れている学生のフォローアップが重要になる。卒業後に就農し、しっかり稼いでもらうための動線設計も非常に重要だと感じている。続いて、農業者の視点から委員お願いしたい。

4. **委員** 農業大学校の先行研究が少ない中、今回提示された戦略や社会人コースの設置案などは現場に即しており、極めて素晴らしい。一番大事な「戦略」の部分は間違っていないと高く評価する。過度な加工や 6 次産業化を追わず、現場に即した内容になっている点も良い。ただし、一農業者として「3 つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）」の文言の作り方や外部への見せ方は分からないため、その点は委員などに教えてもらいながら作り上げていきたい。

5. **進行役** 農業界が欲しい人材が育つようになっているかという「身」の部分こそご意見いただきたいところ。ポリシーが形骸化せず、中身と繋がっている必要があるため、その辺りは委員や委員にお聞きしたい。続いて委員お願いしたい。

6. **委員** 今回初めて参加したが、細かく方針が設定されている点を評価する。高校でも入学者に求める像や卒業後の方向性などを設定しているが、農業大学校でも高校生や一般層が見て分かりやすいカリキュラム編成が必要。4 年制大学と違い 2 年間という短期間であるため、学校側が学生をしっかりサポートしていく体制が求められる。また、農大が新しく変わったことを世の中にどう広報・アピールしていくかも今後の課題である。

7. 進行役 カリキュラムのメリハリについて、学生の「やりたい」という関心と、実際に現場で必要とされる技能がどう設計され身につくのか、今後ご指摘いただきたい。委員いかがか。

8. 委員 基礎的スキルの習得に関して、ファーミングシミュレーター（トラクターなどの操作練習機）の導入を提案したい。県外からの募集拡大については、現在、地方の高校が都市部の生徒を奪い合う激しい競争が起きており、特色を出さないと空振りに終わる。農業系のビジネスコンテスト（ベジコンや、お米甲子園など）への積極的な参加は、全国での立ち位置を示す良いアピールになる。社会人向けコースについては、景気の波により再就職を目指す時期に備え、非常に必要。また、農大は県庁中級試験や 4 年制大学への編入など「複数の進路が確保されている」ことも受験生への大きなアピールポイントになる。

9. 進行役 ファーミングシミュレーターについては私自身も東京農大（先生）で世話になったため紹介できる。ビジネスコンテスト参加もアウトプットがインプットになる良い施策だ。最後に委員お願いしたい。

10. 委員 「良い作物を作るだけでは足りない」「良い学校を作るだけでは足りない」というパラダイムシフトを前提とした、野心的で覚悟を感じる内容である。最大の課題は、高校などでのわずか 10 分～15 分程度の学校説明会で、17～18 歳の若者に魅力をどう伝えるか。「特長を一言で表すと何か」という出口を見据え、3 つのポリシーを極限まで煮詰めて分かりやすく伝える工夫が必要である。

11. 進行役 はっきり分かりやすくという点について、農水省が公表している全国の農業大学校の 1 枚紹介シートを見ると、各県が何に注力しているか分かるものがある。今回の徳島の案は枠組みが良くなっている分、少し満遍なく薄まってしまっている要素もあるのではないか。「はっきり訴える部分はどこか」が重要になる。ここからテーマごとに伺いたい。まずは「3 つのポリシー」の運用やブラッシュアップについて、委員いかがか。

12. 委員 3 つのポリシーには 2 つの機能がある。1 つ目は教職員の「内部マネジメントの判断軸」。新しい取り組みをする際に、ポリシーに照らして判断する基準になる。2 つ目は「外部への発信」。中高生には難しい行政用語ではなく、「モノをつくる力でコトを起こす人」のように端的に伝える工夫が必要。一方、協力農家や企業には「カリキュラムポリシー」を中心に説明するなど、対象に応じた運用が求められる。

13. **進行役** 3 つのポリシーは内に留めるだけでなく、学生などとのコミュニケーションの中で共通認識にしていく必要があると理解した。内部の教職員マネジメントという点では、具体的にどのように運用していくのか。

14. **委員** 高校等でも教員会議等で扱うし、スクールミッション等の枠組みの中で考える。また、外部機関による認証評価の際にも「3 つのポリシーからどう成り立っているか」を評価される。

15. **進行役** スクールミッション等の話を踏まえ、委員へ、ポリシーの運用についてのご意見を伺いたい。

16. **委員** 高校入試では保護者や担任の意向が大きく働くため、3 つのポリシーは内部に留めず、ホームページなどでオープンにし、彼らが納得できるような見せ方をしていく必要がある。

17. **進行役** 次に、現行コースの再編や「すぐにとりかかる事項」について。内容が十分カバーできているか、フラットに見て委員・委員いかがか。

18. **委員** 内容はめちゃくちゃ良くなっており、これ以上増やしても大変なので、ちょうどいい塩梅だと思う。

19. **委員** 変に加工や 6 次産業化を追っかけないで、現場に即したことがしっかり書かれているので、これ以上はないと思う。

20. **委員** 県外から学生を呼ぶ際、「徳島の農業界」と言われた時に想起させる「色や強み」が必要。栃木の「いちご学科」のように、何か旗を立てて分かりやすく打ち出さないと、他県との違いが伝わらない。徳島の農業と言えばコレ、という強みは何かを明確にすべき。

21. **進行役** 県外からの募集という点で、農業大学校側はどう想定しているか。特に社会人コースは県外から集まりそうであり、委員の指摘が刺さると思う。

22. **校長** 徳島は特定の一品目に絞るのが難しく、水稲の裏作や、にんじん、ほうれん草などの冬野菜、なると金時など、多様な作物が作れるのが強みであり、それをアピール材料としたい。

23. **進行役** 特定品目に絞るのではなく多品目を作っているからこそ、学生に徳島の特色をどう理解してもらうと良いか、委員いかがか。

24. 委員 徳島の農業は吉野川の恩恵を受け、上流から下流まで土質がグラデーション（粘土質から砂地まで）になっており、作ろうと思えば何でも作れる。「自分がやりたい農業があれば、それに適した土壌を選べる」という選択肢の多さが魅力になる。ただし、間違った場所（適さない土壌）を選ばないためのサポート体制が必須となる。

25. 進行役 間口を広げ、入ってから色々考えられる見せ方もあるということか。その場合、サポート会議でのエリアマネジメントとの連動が重要になる。委員いかがか。

26. 委員 「徳島の農業とは何か」がすぐに答えられないこと自体が、魅力度の低さに繋がっていると痛感した。特定の品目ではなく「大阪の食文化を食材で支えている」といった見せ方が適当かもしれない。ただ、現実問題として稼いでいる農家は「その地域の特産品」を作っている。新規就農者が地元で作られていない珍しい野菜を作ってもJAの流通に乗らず稼げないため、品目選びの戦略は極めて重要。

27. 委員 例えば、学校説明会で大阪の巨大スーパーの風景写真を見せ、「並んでいるこれら全てが徳島産だ」と伝えられれば大きなインパクトになる。自らの強みを理解し、それが活きる戦い方・アピールをしていくべきである。

28. 進行役 続いて、クォーター制などの具体的なカリキュラム再編について。委員いかがか。

29. 委員 メリハリのある学習ができるため賛成。ただし、学生がダラダラ過ごさないよう、「ここまででこれを身につける」という区切りと到達目標を明確にした教育課程の編成が必要である。

30. 進行役 4タームになることで、マイルストーンとしてウォッチできるタイミングができる。委員いかがか。

31. 委員 賛成だが、3ヶ月という短期間で単位を認定するための「到達度の評価方法」をきっちり決める必要がある。駆け足の授業になってしまう危険性もゼロではない。

32. 進行役 クォーター制の評価について委員いかがか。

33. 委員 積み上げ型の科目（前の内容を理解していないと次へ進めないもの）がどれだけあるかが論点になる。病気などで1ヶ月休んだ場合などに、次のタームで取り返しがつかなくなるリスクをどこまで想定しているか議論が必要。

34. **進行役** 現行コースの再編について、他に何かご意見はあるか。

35. **委員** 農業法人の社長から「日本人には技術だけでなくマネジメント力が必要」と言われた。教養科目に経営やビジネス創造、チームをまとめるスキルを入れるのは必須であると感じる。

36. **進行役** スマート農業の世界観でもマネジメント側で技能を身につける必要がある。課題解決型学習（プロジェクト研究）の中でそうした素養が育成されるのではないかと考える。次回の宿題としたい。

37. **委員** カリキュラム案の文章において「生産物加工や高付加価値化」が強調されているが、現場で利益を出すために最も必要なのは「シーズンを通して安定的に出荷し続ける栽培技術」である。高付加価値化（100 円のものを 120 円で売るなど）は現実にはほぼ無理であるため、誤った夢を持たせ、そちらに走らせないような文章表現に修正すべき。

38. **委員** 農業で食べていくためのルート（シナリオ）は複数ある。ブロッコリーを通年で作る道、特産品に絞る道などを一括りにすると散漫になる。まずは「稼げる農家の勝ちパターン」をいくつか整理し、その上で共通項と違いを議論すべき。

39. **進行役** まさに社会人向け「即就農コース」でも「稼ぐ」意識を持たせることが重要になる。8 ヶ月という長期インターンの間で、農業者が学生に何を提供でき、学校とどう連携してほしいか。委員いかがか。

40. **委員** 社会人は「多額の設備投資をして安定を目指すか」「投資を抑えるか」「既存ブランドに乗るか」など、目指すスタイルが全く異なる。入学時に本人から徹底的にヒアリングし、着地点までの計画をすり合わせた上でないと、適切なインターン先（農家）とのマッチングはできない。

41. **進行役** 就農スタイルが多様なため、ミスマッチを防ぐためには事前の学校側での「捌き」が重要であると理解した。委員いかがか。

42. **委員** 脱サラして来る人は「自分のブランドを作りたい」「有機農業をやりたい」など夢を抱きがちだが、それは勝ちパターンではない（カフェ経営などは負けパターンの典型）。農大側が「徳島でしっかり稼げる道筋（勝ちパターン）」を提示し、間違った戦略（儲からない道）に進ませないよう教えることが一番の支援になる。

43. 進行役 まずは勝ちパターンに乗ってもらう。6 次産業化などをやりたい場合は、経営が安定してからだと筋道を立てるべきということ。また、農業特有の金銭感覚をどう現場で提供できそうか。

44. 委員 研修生には、ただ作業を教えるだけでなく、「単価と原価」「何人でやれば利益が出るか（間に合うか）」を常に計算させ、損益の分岐点を意識させている。単なるプレイヤーではなく、マネージャー視点を持たせる金銭感覚の指導が現場では不可欠である。

45. 進行役 現在の資料からは読み取れない部分だったが、大変重要な要素である。委員いかがか。

46. 委員 フォーマット（Excel 等）で数字を入れたら損益分岐点が出るようなものが学校から提供されれば、現場の農家としても指導がやりやすい。

47. 進行役 農業大学校側でフォーマットを準備し連携するのが良い。ちなみに、1 年コースのうちの 8 ヶ月というインターン期間で十分なのか。

48. 委員 8 ヶ月のインターンで栽培の 1 サイクルは経験できるか。小松菜など葉物野菜のように回転が早いものは経験できるが、品目による。

49. 委員 8 ヶ月のインターンで栽培の 1 サイクルは経験できるが、完全な習得は無理である。自営就農を目指す場合、最大の壁は「農地の確保」である。他県の事例のように、卒業と同時に就農できる農地を県やサポート会議が事前に確保しておく仕組みがなければ、人は集まらない。

50. 進行役 卒業後、すぐに自営就農できそうか。それともまずは雇用就農すべきか。

51. 委員 サラリーマンを辞めて農業を志す人は「自営の自由さ」を求めているため、雇用就農だけでは満足しない。「1 年コースで学び、2 年間雇用就農で頑張った後に独立する」といった具体的な道筋を学校側が立ててあげることが大切である。

52. 進行役 社会人コースは自営就農のニーズが高そうであるため、なおさらサポート会議との連動が重要になる。残り時間で、サポート会議について不足している要素など意見はあるか。

53. 委員 民間法人や農業士会も巻き込むべき。

54. 委員 青年農業士は現状、明確な役割を与えられていないため、こうした就農支援の役割を任せれば喜んで協力してくれるはずである。

55. 進行役 間もなく時間となる。最後に言い残した提言などがあればお願いしたい。

56. 委員 新しいコースや外部とのプログラムが増える中で、教職員の運営リソース（人員・予算）をどう確保するのか。現実的なコストや人員配置の目処が立っているのかが気になる。

57. 校長 予算獲得に向けて努力する。また、既存の社会人向け「アグリチャレンジコース」のボリュームを見直し・圧縮することで、人員リソースを捻出したいと考えている。

58. 進行役 時間となったため、私の進行は以上とさせていただく。ありがとうございました。

59. 担当部長（総括） 当初は幅広い作物を学んで学生に選ばせる「網羅的」なカリキュラムを想定していたが、委員の「徳島の農業界における徳島の意味は」という問いかけから雰囲気が一変した。「徳島は徳島ですよ」と返したいほど、詳細について全く考えられていなかったのが実態であり、委員の指摘も含め、「徳島らしい農業」「生活していける稼げるモデル」をどう絞り込み提示するかが非常に重要な視点だと痛感した。 次回の取りまとめは大変になるが、しっかりと絞り込みを行いたい。また、人員等のリソースについても、県農林水産部の農業職約 200 名の中での役割分担や、外部講師の活用を含めて予算確保を進めていく。

60. 事務局・閉会 今回出た具体的な意見を事務局で整理し、次回（10 月上旬頃予定）に向けて最終的な事務局案をブラッシュアップした上で、総括的な議論をお願いしたい。本日はありがとうございました。